

生活デザイン学科(九女型人材育成プログラム)オフキャンパス研修

令和7年10月13日(月)に本学弘明館2階B203、B204にて、生活デザイン学科1年生を対象に毎年恒例の課題解決型学習オフキャンパス研修を行いました。オフキャンパス研修は今年で11年目を迎えます。

今年度は1年生(編入生を含む)48名、3年生のファシリテーター(FA)16名、スチューデントアシスタント(SA)9名、教員3名、助手1名の計77名で臨みました。ピンク色のポロシャツが1年生、黒のポロシャツが3年生です。

この研修は、学んだ知識を活用して問題を解決する力を育成し、情報収集、情報分析、課題発見を通して構想力を養い、将必要とされる課題解決力を身に付けていくことが目的です。そして、自分の意見を主張しながらも他者の意見を受け入れ、自分たちのチームの方向性を定めていくプロセスを経て、発表会でプレゼンテーションを行いました。

今年度は、

『持続可能な交流が続くまち折尾 —多様性を活かして—』

というテーマをもとに活動を行いました。

資料の印刷や机のセッティングなどの準備は、当日参加できない3年生が事前準備チームとなり行うことで3年生全員が参加します。

【午前】

午前中は、オリエンテーション、フリップトークののち、与えられた資料の読解と情報共有を行い、ジグソー学習を進めました。

ジグソー学習では、①から⑤の内容の各ブースに、チームから1～2人派遣され分担して学び、もとのチームに戻って学習内容を共有します。その内容は以下の項目です。

①多様な人向けのイベント、②留学生の住み心地、③街に求められる商業施設、④ユニバーサルデザイン（タウン）、⑤折尾駅周辺のゆとりの場、です。



【ジグソー学習：留学生の住み心地についてのブース】



【ジグソー学習：ユニバーサルデザイン（タウン）についてのブース】



午前の活動を終えて、1年生たちの緊張も少しずつ解れているように見えました。

【午後】

お昼を食べてエネルギーチャージした後は再度、資料共有を行いました。チームメイトの記入ペースも確認しながら情報共有を行う姿が見られました。中には1人でいくつもの意見を挙げられているチームがみられ、資料の読み込み方にチームの特性が見られました。

KJ法の時間では各チームが調べ、共有した情報をもとに課題点や解決策を考え、その解決にはどのようなありかたが良いかを考える姿が見られました。



出し合った意見をグループでまとめ、それらをどのように解決することができるか試行錯誤しています。

(各チームの KJ 法結果)

A おたまじゃくし集団



B パンドラ



C いいにく



D DenDen 虫



E J



F 薩長同盟



G まるみいず



H Tokyo Girls



KJ法では、午前中とはうって変わりのチームも1年生主体となって活動することができていました。昨年は3年生が間に入りながら活動していましたが、今年は完全に1年生主体で活動することができているように感じました。ただ情報を整理するためのツールとしてKJ法を使用するのではなく、だれが見てもわかりやすく工夫しているチームが多く感じられました。

意見をまとめることができたチームは、自分たちの言葉で先生に説明をします。「現実的ではないよね（実現可能性の問題）」「解決方法がよわい（失敗した場合の次の矢はあるのか）」「本当にそれでいいのか？」や矛盾点を指摘され、さらに考えを深めます。

1日という長い時間でしたが、チーム内では、意見交流だけでなく、世間話を行い楽しそうでした。

発表は10月24日です。8チームがどのような発表を行うか楽しみです！

【発表日】10月24日

いよいよ発表日となりました。発表は14時から行われ、3年生が会場につくと原稿に向かい合い練習をしている姿が見られました。準備期間が約1週間半という短い時間ではありましたが以下のような発表内容でした。上位3

位を紹介します。

順位	チーム名	発表内容
1位	パンドラ	食でつながるチーム折尾 ～あなたの今日を、一口分だけ明るく～
2位	おたまじゃくし 集団	共生を目指す折尾 × 地域とグローバルに繋がれる商業施設
3位	J	学生の長期休暇の思い出作り



【1年生の感想】

1年生数名の感想をご紹介します。

○ O.Yさん

情報を伝えるだけでなく、「なぜ大切か」「誰にとって良いのか」を自分の言葉で説明するよう工夫しました。多様な人が安心して交流できる地域のあり方も学びました。

○ M.Aさん

課題解決型授業は苦手でしたが、友達や先輩と協力しながら取り組む中で少し得意になりました。班ごとに解決策

が異なり、多様な視点を学べました。結果的に1年生の中で2位となり、自信につながる経験になりました。

【最後に】

例年同様まちづくり支援担当の方をお招きし、学外目線でのご講評をいただきました。学内からは見えない視点からやまちづくりに携わっているからこそその考えなども得られ1年生にとって良い経験となったと思います。ありがとうございました。

結果は上記のようになりましたがどのチームも独自のアイデアで勝負しており、課題を発見し、解決するにはどうすればよいのかチームで考え、行政の方の前で発表する体験をしたことは今後につながることでしょう。今回の発表で出た反省点や、ご講評いただいたことを忘れずに、1年後もしくは3年後の卒業論文につなげましょう。来年の1年生がどのような内容を発表してくれるのか楽しみです。

